令和３年度第２回野辺地町総合教育会議　会議録

|  |  |
| --- | --- |
| 日　時 | 令和３年１２月１４日（火）　午前１０時００分～午前１１時４０分 |
| 場　所 | 野辺地町役場　議場 |
| 出席者 | （会議構成員）・野村　秀雄　（町長）・江刺家　和夫（副町長）・新渡　幹夫　（教育長）・中村　公允　（教育委員）　・野坂　幸子（教育委員）・林　　　亨　（教育委員）　（町内学校）・中濱　博之　（野辺地小学校　校長）　・小林　真也　（若葉小学校　校長）・増尾　安希子（馬門小学校　校長）　　・楢󠄀舘　満　　（野辺地中学校　校長）・坪　　宏至　（青森県立野辺地高校　校長）・橋場　保人　（八戸学院野辺地西高等学校　校長）（教育委員会事務局）・冨吉　卓弥　（学校教育課　課長）　　・中野　良喜（学校教育課指導室　室長）・五十嵐　洋介（社会教育・スポーツ課　課長）・小野　早苗　（中央公民館等　館長）・飯田　満　　（学校教育課　課長補佐）・石黒　努　　（社会教育・スポーツ課　主幹）・藤谷　俊徳　（学校教育課　総括主査）　　　　　　　　　　　　　（敬称略） |
| 欠席者 | ・杉山　道彦（教育委員） |
| 司会進行 | 教育委員会事務局　（学校教育課　飯田課長補佐） |
| 内容 | 町長挨拶案　　件**１．令和４年度当初予算要求重点事業について**■冨吉学校教育課長、五十嵐社会教育・スポーツ課長、小野館長から、令和４年度当初予算要求重点事業について説明した。（会議資料ｐ１～ｐ６参照）【委員質問】ｐ２の学校教育課見直し業務のスクールバスについて、令和５年度以降は馬門地区児童生徒の送迎用と記載があるが、中学生も対象なのか。（事務局回答）児童生徒数を計算すると４４人乗りでギリギリのラインであることに加え、馬門地区から他学区就学として野辺地小学校や若葉小学校に通学している児童をどうするかなどを考慮し、専門部会の方で検討中です。**２．学校の現状と課題について**■各小・中学校長から、学校の現状と課題について説明した。（会議資料ｐ７～ｐ１０参照）■中野指導室長から、学校訪問等を通して感じた各学校の状況について次のように説明された。* + 昨年度の学校訪問は新型コロナウイルス感染症対策により、参観授業を伴う指導ができなかったが、今年度は１学期の計画訪問から参観授業ありの指導・助言を上北教育事務所の応援をいただきながら、実施することができた。内容に関しても、町長にも一部視察していただいたが、今年度から児童生徒全員に配布されたタブレットを活用し、解答の保存・提出・発表にも有効に活用していた授業が多数見られた。

また、今年度１０月に開催された北地区学習指導研修会では、野辺地中学校、馬門小学校が発表校として日々の授業実践を発表し、それぞれ大きな成果を得ることができた。なお野辺地中学校においては、コロナ対策のため、町外からの教職員の参加が制限されたため、授業の様子をオンラインで他町村中学校に配信するなどして、研修会の成果を発信することができた。要請訪問に関しては、学級担任全員が提案授業を行っている学校もあったので、多い学校は１０回ほどの訪問を実施することができた。通常、管内の他校では年間３～４回の訪問がほどんどであるため、学校訪問に関しては、全体を通して充実したものとなったと思う。* **【知的面(学習指導関係)】**

各種学力検査については、全国・県・ＣＲＴ等の結果では、各学校、学年、教科間でやや違いは見られるものの、補充授業、授業体制、長期休業中の学習会等、各校で工夫した対策をとっていただいている。校内研修については、各学校で課題を挙げていただいているので、その問題点に即した校内研修を計画し、日々の授業実践に結びつくものをお願いしたい。授業改善については、児童生徒にとって、やはり授業が分からないとつまらなくなるし、教師側からすると余計な注意が増えてくる。授業内容の理解度を測る工夫とともに、分かる楽しさを感じる授業展開に努めていただきたい。指導室としても特に、若い先生方向けの研修会を毎週定期的に今後も継続していく予定。* **【徳育面(生徒指導関係)】**

いじめへの対応としては、軽微な内容に対してもいじめとして捉え、早期対応に尽力されていると思う。ゲームに起因するトラブルも増えているので、迅速な対応、保護者への啓発活動等、引き続きお願いしたい。不登校対応については、町の教育相談室、ＳＣ，ＳＳＷと連携しながら対応に努めているが、全国、全県的にも増加傾向にある。野辺地町も例外ではなく、特に最近は家庭環境・保護者に起因する場合が多く、学校だけでは対応が困難な場合もあるので、場合によっては、健康づくり課、児童相談所等の関係機関とも連携しながら改善を図っていきたいと思っている。* **【体育面(教科・健康教育関係)】**

体力づくり等については、各校で実情に合わせた種目等を実施し、体力向上に努めている。今後も体力テスト等を１つの基準として、落ちている能力の向上に努めていただきたい。生活習慣については、ゲーム使用時間過多等による睡眠不足、生活習慣の乱れ等が増加しているので、今後も保護者への協力を要請しながら、対応をお願いしたい。**３．校長会からの要望**■校長会楢󠄀舘会長（野中校長）から、校長会からの要望について説明した。（会議資料ｐ１１参照）【教育長より】　　現状(成果)と課題の中に、ＣＲＴと県の学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果を速報値でも構わないので記載してほしい。**４．町内高校の現状**■野辺地高校、野辺地西高校、両校の状況について校長に以下のように説明いただいた。【野辺地高校】現在学級数は各学年２クラスで、計６クラスとなっている。従来であれば２年次から①スポーツ科学コース、②総合コース、③進学コースの３つのコースに分かれていたが、生徒数の減少に伴い３つのコースで運営することが難しくなったため、令和４年度入学生からは、就職対応のⅠ型と進学対応のⅡ型とコンパクトにまとめる学年編制とすることとした。学校の特徴としては文武両道をモットーに、放課後は進学講習や部活動に取り組ませており、部活動ではスキー部やハンドボール部が県大会等で好成績を収めている。また、文化部では書道部が県高総文１位、全国高総文特別賞を受賞するなど最近活躍がめざましい。また、公務員試験対策講座の開講や資格取得のための担当教員による放課後特別指導など、生徒の多様な進路に対応している。令和３年３月に卒業した生徒の進路は進学率６１％、就職率３９％となっており、国公立大学へは３名合格した。また、速報だが国公立大学に２名決まっており、その２名は町が実施した高校生短期講座を受講させていただいていた。特色ある教育活動については、県の事業である、就職・公務員希望者に特化したセミナーを行う「高校生の就職総合支援プロジェクト事業『キャリア形成講座・研修会』」や、県内の大学見学を企画し、生徒の進学意識の向上と学生生活に関する理解の深化を図る「進学力を高める高校支援事業(進学力パワーアッププログラム)」を活用している。また、町の行政機関や商工会青年部などの協力を得ながら、総合的な学習の時間や課題研究において、地域社会が抱える課題の解決に向けた探究的場活動に取り組み、地域の将来を担う人材の育成を図っている。本校の課題については、志望者数の向上と生徒の生きる力をつけて卒業させることだと考えている。志望者数の向上に関しては、中学校に野辺地高校のコーナーを作っていただいたり、教育委員会に作成していただいたポスターを活用しながら本校の魅力を発信したい。また中学校訪問を行って、近隣の中学生がどのような部活を望んでいるかを調査し、部活動の統廃合やラケット系の部活を復活させることを、来年度の募集に加えることとしている。学校内では地区の自治会や町に協力してもらいながら、防災教育を考えている。最後に、本校では学校の中にプロジェクトチームを作って、どのように魅力を発信するかいろいろ案を出してもらっています。形にするのは少し時間がかかると思いますが、お待ちいただければと思う。【野辺地西高校】野辺地町には大変お世話になっており、たくさんの生徒が来ているが、助成金や、お金だけでなく地域の方々の温かい励ましや激励をいただいて、子どもたちはいい大人になるための次のステップに順調に成長して学校を巣立っていますので、改めてお礼を言いたい。現在は各学年３クラス約２３０名の生徒が在籍しており、６割進学、４割就職となっている。生徒の活動状況については、毎月「八学野西トピックス」を発行している。今月の掲載内容として、１つ目は野坂幸子先生の蔵を見学させていただいたこと、２つ目は県の総合学科の学習発表会に、校内の予選を通過した槇晴美教諭指導グループが「葉つきこかぶの研究」をテーマに、４月からこかぶの栽培をして失敗はしたが、なぜ失敗したかという内容で発表すること、３つ目はサッカー部が選手権において王者青森山田高校を相手に先制し、敗れはしたが最後まで戦いきったことなどを掲載している。令和４年度に全国産業教育フェア青森大会が開催される予定で、本校も総合学科校として参加予定。全国から青森県に集まるので、野辺地西高校としては、本校のアピールとともに、野辺地町と連携して、野辺地町にある高校として存在感が保たれればと考えている。最後にサッカー部をはじめ、空手道部、レスリング部に関しては人財育成助成金をいただいて、東北大会や全国大会に出場するような強化をさせていただいており、確実に大学進学に結びついている。必ず野辺地町のためになる人材として成長し、何かしらの形で野辺地町にお返しをしたい。そのようなことを生徒に伝え人財育成助成金を活用させていただいている。本当にありがとうございます。【野坂委員】　　　先日「所さんのダーツの旅」が当町に来て町民に取材した際、町民が「野辺地町は何もないところだ」と言っていた。町民がそう言うのは、私たちのふるさと教育や野辺地で子どもを育てると言ってきたことが、どうだったんだろうかと思った。進学ばかりではなく、地域との結びつきを。子どもも親も、地域みんなで野辺地町はこんなものがある、野辺地町はこんなことができる良い町だということを考えてみてもよいのではと思った。学力の方も皆様頑張ってくださっているし、ロータリークラブでお邪魔した時も、素晴らしい作文を書く子どもたちが育っています。これからまだまだ何かを創り出せる野辺地町だと思っているので、これからみんなで、何かある野辺地町にしていただくことを願う。私も教育委員として考えてみたいと思っているので、よろしくお願いします。教育長から副町長から町長から閉　　　会 |